

静岡市のココが聞きたい

総括質問

令和2年12月2、3、4日の3日間、15人の議員が総括質問を行いました。質問の一部を抜粋してお知らせします。



脱炭素社会の実現

質問者 山梨 渉(公明党)

脱炭素社会の実現に向けた「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ」に対する市長の思いは。

【答弁】 近年の記録的な猛暑、自然災害の増加や激甚化まで、私たちは今、目に見える形で気候変動がもたらす脅威にさらされている。

この「気候危機」の状況から、安全・安心な市民の暮らしを確保し、市が有する世界基準の資産を次の世代に継承していくため、2050年温室効果ガス排出実質ゼロに向けて取り組んでいくことを表明する。

今後は、市内経済界や市民との連携を更に深め、経済と環境が両立する先進的な仕組みを構築し、地域、更には国全体に波及させていくなど、ゼロカーボン都市に向けたチャレンジを開始していくことで「世界に輝く静岡の実現」につなげていく。

語句説明

2050年温室効果ガス排出実質ゼロ

2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする目標。令和2年10月26日の菅内閣総理大臣の所信表明演説で宣言された。

ゼロカーボン都市(ゼロカーボンシティ)

2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロを表明した自治体。令和2年12月17日現在、197自治体が表明。



SDGsの目標

プラスチック資源の回収方針

質問者 佐藤 成子(志政会)

国が検討しているプラスチック資源の一括回収の方針に対し、市はどのように考えているか。

【答弁】 本市は、収集運搬等の経済合理性や環境負荷、市民負担等を総合的に勘案し、清掃工場において処理する過程で熱や電気として回収するほか、生成される溶融スラグを肥料や建設資材として有効活用するなど、独自の先進的な資源循環システムで処理している。

国の方針は、効率的なリサイクル体制の在り方や温室効果ガスの削減効果の検証などが未だ不十分であると認識している。そこで、本市は令和2年8月、方針を一律に適用するのではなく自治体が主体的に処理方法を選択できるように、千葉市や福岡市等と共に国に要望した。今後も、国の動向やリサイクル技術の進展なども注視しながら引き続き研究していく。

語句説明

プラスチック資源の一括回収

環境負荷の低減や循環型社会の構築につなげるため、家庭から排出される容器包装以外も含めたプラスチックを一括回収、リサイクルすること。

溶融スラグ

ごみなどを高温で溶かして、灰に含められ、水で急速に冷やすることで、重金属が封じ込められ、安全なガラス状の固化物。



クラスター公表基準の見直し、店舗名等の公表

質問者 松谷 清(緑の党)

飲食店を対象としたPCR検査の実施は、無症状者を対象とした行政検査という点でこれまでの方針の大転換である。クラスターが連続して発生する緊急事態の中で、これまでの公表基準を見直し、店舗名等のより詳細な情報を公表する必要があるのではないかと。

【答弁】 本市は、感染者が不特定多数と接触した可能性があり、利用者が特定できない場合は、管理者等の同意が得られずとも店舗名を公表することとしている。クラスターの連続発生を受け、注意喚起のため、業態や感染予防対策が不十分な点も公表している。今後は、感染者数の増加で高まる市民の不安を払拭するため、利用者が特定できる場合でも、店舗の管理者等に公表の目的を丁寧に説明して理解と協力を求め、店舗名等の公開を前提に、同意を得る働きかけを強めていく。

ポストコロナを見据えた観光業支援

質問者 島 直也(自民党)

観光業は地域経済の活性化には欠かせない産業であり、ポストコロナにおける経済対策としてどのように回復させていくかが大変重要であると考える。今後の観光業支援の考え方は。

【答弁】 喫緊の課題に対する短期的な施策として、大規模スポーツ大会等の開催支援拡大や団体旅行客をターゲットとする宿泊事業者への支援を行う。

コロナの収束後を見据えた中長期的な施策として、周遊観光の促進と夜の観光資源の充実の取組を進めていく。具体的には、するが企画観光局と連携したしずおか中部連携中枢都市圏5市2町の地域連携DMOや、日本平からの夜景整備を進めワールドクラスの夜景の実現を目指していく。これらの取組により、観光需要を創出することで、地域経済の活性化を図っていく。

感染者や医療従事者などへの誹謗中傷対策

質問者 稲葉 寛之(志政会)

新型コロナウイルスの感染者や医療従事者などへの誹謗中傷対策として、これまでと今後の取組は。

【答弁】 これまで、市長メッセージや定例記者会見で、いわゆる差別や偏見、誹謗中傷は深刻な人権侵害であることを市民に繰り返し伝えてきた。

今後は、定着しつつある二つのLifeのロゴを取組の象徴となるロゴへ進化させ、本市全職員がロゴを印刷した名札を着用するとともに市民へバッチなどの啓発品を配布するほか、SNSは誹謗中傷の場となりやすいため、本市公式LINEでの感染情報にロゴを添え、思いやることの大切さに気付く機会を創出する。一方、現に誹謗中傷を受け苦しんでいる方には、市民相談室や関係機関の窓口情報を分かりやすく広報し、メンタル、法律、医療などあらゆる面で支援していく。

語句説明

二つのLife(ライフ)

一つは命、生命としてのLife、もう一つは暮らし、日常の生活のこと。

新型コロナウイルスの脅威から、市民の「いのち」を守り、地域経済の衰退という大きな脅威から「暮らし」を守るという意味が込められている。



啓発バッジ

(裏面「広報しずおか」1~2ページに関連記事有り)

コロナ禍におけるスポーツの推進

質問者 畑田 響(自民党)

コロナ禍において心と体の健康を保つために、スポーツを普段から行うことが重要であり、市として推進していくべきと考えるが、市の取組は。

【答弁】 本市は平成31年3月に静岡市スポーツ推進計画を改定し、「スポーツ・イン・ライフ」の考え方を取り入れた取組を行っている。今後は、①親子で参加できるランニング教室など、気軽に参加できる教室を充実させ、スポーツを始める機会をより一層提供していくこと、②市民にウォーキングなどの軽運動を継続していくことの効果を広く発信し、スポーツの習慣化を促していくことの二つの取組を軸に、市民それぞれが新しい日常にスポーツを取り入れ、スポーツの持つ力や素晴らしさを再発見することにより、健康で豊かな生活が実現できるよう、積極的に取り組んでいく。

語句説明

スポーツ・イン・ライフ

スポーツ庁が提唱する概念で、本市では、日常において意識的に行う生活活動(ウォーキングや階段昇降など)もスポーツであると定義する。スポーツが特別なものではなく、それぞれのライフスタイルに応じて日常生活に溶け込み、親しまれている状態。

全部見られる総括質問

左記HPで録画した映像をご覧いただけます。ご覧になりたい議員名から選択することもできます。



https://www.city.shizuoka.lg.jp/000\_000269.html